

令和5年度理科授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験器具の使い方を正しく理解し、実験では正しく器具を使えている。
- ・顕微鏡の操作指導を十分に行ったことから、今年度の目標値よりも7.5上回った。

(2) 課題

- ・どの学年も目標値よりも大きく下回っているため、学習の定着が低い。観察・実験を通して、体験的に学習を習熟できる環境が必要である。
- ・実験に対して、主体的に取り組む児童は多い。しかし、予想と考察を結び付けて考えることを苦手とする児童が多いため、予想を立てるときには根拠を考えさせ、考察まで導く指導を行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	-7.1	/	/
第5学年	-7.2	+3.1 (第4学年時)	/
第6学年	-9.5	-1.5 (第5学年時)	±0 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも低い正答率である。太陽と地面のようすはよく理解できているが、こん虫の育ち方、音の性質、磁石の性質、ものの重さに課題がある。	どの単元も目標値よりもやや低い正答率である。特に、風やゴムの働きに課題がある。	目標値よりも低い正答率である。前年度同様、観察・実験に対して興味・関心をもって取り組む児童が多いが、実験で分かったことを記述することに課題がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも高い正答率である。特に、6年顕微鏡の使い方は目標値よりも高い。5年「ものの体積と力」は目標値よりもかなり低いことが課題である。	目標値よりも低い正答率である。特に、5年「自然の中の水」、6年「ふりこのきまり」に課題がある。	目標値よりもやや低い正答率である。特に、5年「電流のはたらき」は正答率がかなり低い、6年「植物の発芽と成長」の正答率は高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> それぞれの学習単元で押さえるべき知識については、調べる活動を通して、理解を図る。 観察、実験などに関する技能を身に付けさせるために、事前に視点を提示し、何度も試せる場をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象から見出した問題について、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を考える発問を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程の中で、「理科の見方・考え方」を働かせ、問題を追究していくという理科の学習の仕方を身に付けさせる。 実生活と関連付け、疑問をもち、知りたいという意欲に結び付ける。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験を通して、児童同士が互いの意見や考えを共有して、妥当な答えを導き出し、知識が定着するよう指導する。 ICTを活用して、観察・実験を繰り返し確認してより確実な答えを出せたり、友達の考えを共有して自ら学習課題を解決したりして、理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象から根拠のある予想を基に、解決方法を考え、表現できる指導を行う。 より妥当な考えをつくりだし、表現できるようにするために、話し合いをしたり、話し合うためにICTを活用し、意見を全体に可視化したりして指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分事として考えられるように、実生活との関連を重視し、問題を取り上げ、知りたい・調べたいという意欲に結び付ける。